

PRAEVIDENTIA DAILY (7月18-21日)

昨日までの世界：ウクライナ・イスラエル問題で円高・ドル高

昨日は、ウクライナ問題、イスラエル問題への懸念から世界的に株価が下落し、米長期債利回りが低下する中で、ロシアルーブルを中心とする新興国通貨やNZドルを中心とした主要通貨が対米ドルで下落、米長期債利回りとの連動性が高いドル/円ではドル安円高となり、ドル/円は一時101.13円へ下落した。ウクライナ問題を巡っては、米国による対ロシア制裁を受けて前日からロシア株価が下落していた中で、ウクライナ上空でマレーシア航空機が撃墜されたとの報道や、ウクライナ戦闘機がロシア機からミサイル攻撃を受けたとの報道が流れ、これまでよりもロシア通貨・株価や米株価・長期債利回りの反応が大きくなった。イスラエル問題を巡っては、イスラエル軍がガザ地区で地上戦を開始との報道が嫌気され、原油価格の上昇も比較的大きくなっている。

この間、米経済指標はまちまちで、住宅着工件数が89.3万件と市場予想を大きく下回った一方（より振れが小さい建設許可件数は96.3万件）、新規失業保険申請件数は30.2万件と予想比良好で、フィラデルフィア連銀製造業サーベイも23.9と予想外に改善したが、ウクライナ・イスラエル問題と比較して市場の反応は小さかった。

南アランドは、南ア準銀（SARB）が政策金利の25bps引上げ（5.75%へ）を発表した後は上昇したが、その後の世界株安を受けて反落した。他方、トルコ中銀は市場コンセンサス通り政策金利を50bps引下げ8.25%としたが（指標レポ金利）、一部に大幅利下げ期待があったことから、小幅利下げを受けて発表後にトルコリラは小幅に上昇していたが、その後の株安を受けて、南アランドなど他の新興国通貨と同様に大幅反落した。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.5	-0.04	-0.04	+0.00	-0.07	-0.08	-0.01	-1.2	-0.1	+2.0	+1.2
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.0	+0.04	+0.00	-0.04	+0.04	-0.04	-0.08	-1.2	-1.2	+1.2	+0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	+0.00	-0.04	-0.04	+0.02	-0.06	-0.08	-0.7	-1.2		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.2	+0.05	+0.01	-0.04	+0.07	-0.01	-0.08	-1.2	-0.6	+0.4	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.5	+0.02	-0.02	-0.04	+0.05	-0.03	-0.08	-1.2	-0.6	+0.4	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.2	-0.01	-0.04	-0.03	-0.02	-0.08	-0.06	-1.2	+2.0	+0.4	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：カナダのインフレ上昇は一服するか

きょうの注目通貨：CAD↓

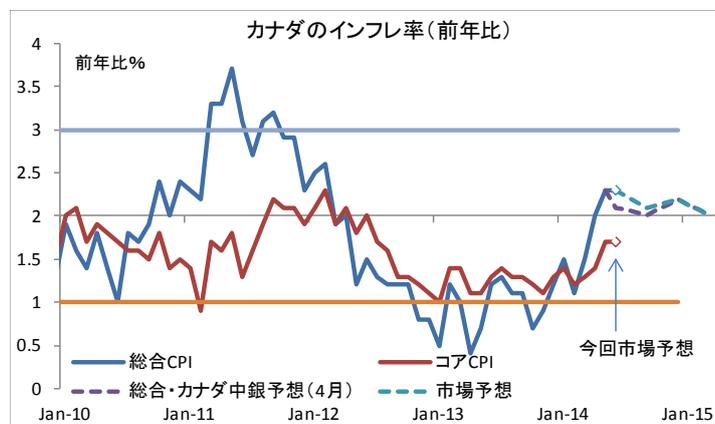
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
Weidmann ドイツ連銀総裁発言	16:30			タカ派
カナダ6月総合CPI前年比	21:30	+2.3%	+2.3%	
同コアCPI	21:30	+1.7%	+1.7%	カナダ中銀物価目標は1-3%
米7月ミシガン大消費者信頼感・速報値	22:55	82.5	83.0	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日はカナダCPIが注目だ。前回5月分では総合CPIが前年比+2.3%と急にカナダ中銀のインフレ目標の中心である2.0%を上回ったことから、タカ派化期待からカナダドル買いに繋がったが、一昨日のカナダ中銀の声明文はあまりタカ派化せず、最近のインフレ上昇が一時的な要因を反映したもので、ファンダメンタルズの変化によるのではないとみていることを強調した。それでもカナダドルは底堅く推移しているが、今後総合CPIは2%へ徐々に鈍化する予想となっていることから(下図を参照)、市場及びカナダ中銀の予想水準が正しいと

すると、(続伸ではなく)既に横ばい予想となっている今回分が市場予想を下回ると、ようやくカナダ中銀が目急にタカ派化する訳ではないことが市場にも理解され、カナダドル売りに繋がるだろう。

2月以降のレンジ下限に近付いてきているドル/円は、まだ強い方向性は出てきていないが、ウクライナ・イスラエル問題など地政学リスク回避傾向が継続し、米株価や米長期債利回りが続落すると、レンジ下限(100.76円)割れを試す展開となるだろう。



来週の注目通貨：GBP↑、NZD↓

来週の指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<21日>本邦休場				
<22日>				
米6月コアCPI前年比	21:30	+2.0%	+2.0%	
<23日>				
豪2Q総合CPI前年比	10:30	+2.9%	+3.2%	
同加重中央値		+2.7%		
同刈込平均		+2.6%		
英BoE議事要旨	17:30			利上げ票が出てくる可能性
<24日>				
RBNZ金融政策決定	6:00	3.25%	3.50%	
本邦6月通関貿易収支・円	8:50	-9108億	-5965億	
同季節調整済		-8622億	-9300億	
ユーロ圏7月PMIコンポジット	17:00	52.8	53.0	
<25日>				
本邦6月コアCPI前年比(除く生鮮)	8:30	+3.4%	+3.3%	消費増税分は+2.0%程度
ドイツ7月Ifo景況感指数	17:00	109.7	109.8	
英2QGDP前期比	17:30	+0.8%	+0.8%	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本邦祝日の21日は、主要国で材料が殆どなく、明確な方向性をイメージできる通貨はない。

来週の注目は英BoE議事要旨とRBNZ金融政策決定だ。BoE議事要旨では、これまでの失業率低下、インフレ率底入れ、景気全般の好調、住宅市場の過熱等を背景に、一部タカ派委員(9名のうち特にWeale委員、Miles委員、McCafferty委員の3名が相対的にタカ派度が強い)のいずれかが利上げ主張を開始する可能性があり、一人でも利上げ票が投じられていれば、年内利上げ開始期待を強め、ポンド高に繋がるだろう(「[最近のBoE金融政策委員の発言](#)」および当社週次レポート「[GBP:タカ派の多寡](#)」を参照)。

RBNZ金融政策決定では、4回連続となる25bpsの追加利上げがコンセンサスとなっているようだ。もっとも、NZドルが過去最高水準に来ているほか、ニュージーランドの主要輸出品である乳製品価格の大幅下落が続き、更に16日発表のCPIが市場予想を下振れるなど、据え置きの可能性も高まっており、利上げを行ったとしても次回会合での追加利上げを示唆するような声明文にはならない可能性が高い。このため、NZドルはRBNZの発表後に下落するリスクに注意する必要があるだろう。

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641